

幡多農業振興センター農業改良普及課

外部評価対象所属の概要

管内市町村 管内JA	四万十市、宿毛市、土佐清水市、黒潮町、大月町、三原村（6市町村） 高知県農業協同組合 幡多地区（JA）					
産地の特徴 主な園芸品目	<p>管内農業は、西南暖地の特徴を生かして海岸部周辺を中心とした、施設野菜（キュウリ、ニラ、新ショウガ、ミョウガ、オオバ、イチゴ、ナス）と露地野菜（オクラ、ブロッコリー）、花き（シュッコンカスミソウ、テッポウユリ）、水稻（コシヒカリ、ヒノヒカリ、飼料用米）、果樹（土佐文旦）の栽培が行われている。また、急峻な地形の山間部では露地野菜（米ナス、ナバナ、シシトウ）や特産果樹（ユズ、ブシュカン）など、地域の特性を活かした多様な農業が展開されている。</p> <p>近年の特徴的な動きとしては、環境制御技術の普及推進やGAP・スマート農業への取組み、集落営農の推進等に加えて、研修施設や事業の活用による新規就農者の確保・育成など、営農面・地域振興面における多様な動きが見られている。</p>					
人員配置 H29年度 22名 （内産休1名） H30年度 21名 R元年度 21名	<p>令和2年度職員総数 22名（うち実務経験が3年未満の職員2名）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">農業改良普及課長 1名</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">地域営農担当 チーフ1名 普及指導員5名 （担当エリア：全域）</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員5名 （担当エリア：土佐清水市、黒潮町）</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員3名 （担当エリア：宿毛市、三原村）</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">産地育成第三担当 チーフ1名 普及指導員4名 （担当エリア：四万十市、大月町）</td> </tr> </table> <p>（産休・育休：1名（令和2年8月～令和3年3月））</p>	農業改良普及課長 1名	地域営農担当 チーフ1名 普及指導員5名 （担当エリア：全域）	産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員5名 （担当エリア：土佐清水市、黒潮町）	産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員3名 （担当エリア：宿毛市、三原村）	産地育成第三担当 チーフ1名 普及指導員4名 （担当エリア：四万十市、大月町）
農業改良普及課長 1名						
地域営農担当 チーフ1名 普及指導員5名 （担当エリア：全域）						
産地育成第一担当 チーフ1名 普及指導員5名 （担当エリア：土佐清水市、黒潮町）						
産地育成第二担当 チーフ1名 普及指導員3名 （担当エリア：宿毛市、三原村）						
産地育成第三担当 チーフ1名 普及指導員4名 （担当エリア：四万十市、大月町）						
普及活動の 進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> ・普及計画における重点課題、一般課題共にチームで課題解決に向けた活動を行っており、チーム内で進捗状況を共有している。 また、チーム長が四半期毎にチーム会を招集し、PDCAによる進捗管理を行っている。この際、チーム内での協議に加えて、所課長からの指導・助言を受けることで目標達成に近づけている。 ・重点課題については、四半期毎に職員会で実績報告を行い、農業改良普及課内全職員でその内容を共有している。また、第2四半期終了後には中間検討会を開催し、農業革新支援専門員（専門技術員）から助言を受けることで、下半期の活動に生かしている。 ・1年を通して、四半期毎に進捗状況や残された課題について、また、年度末には目標達成状況の報告を、環境農業推進課に報告している。 					

職員の資質向上
の取組状況

●職場研修

- ・国や県の補助事業について
事業目的、補助対象となる具合的な内容、対象者、事業要件、手続き方法など、事業活用に必要な基礎知識について理解を深めた。
- ・人権研修（精神障害について）
心の健康「精神障害」とは、法制度の変遷、精神保健福祉の新たな課題、共に働くための接し方について等、事務方職員による研修を実施。研修後、「農福連携」について意見交換を行った。

●新任者を対象にしたOJT

（新任者：採用1年目 野菜部門副担当、作物部門副担当）

- ・普及指導方法、環境制御技術、主要品目の栽培管理、天敵利用、病害虫診断、経営管理、養液分析手法などの基礎技術の習得に向けて、普及課全職員で助言・指導を行っている。
- ・コミュニケーション能力、関係機関との連携、課題解決能力、生育調査方法、実証ほの設置、専門技術などについて先輩普及指導員に同行して習得している。

●国段階研修（令和元年度）

研修名	人数
新任普及指導センター所長研修	1名
普及指導員養成研修Ⅱ（経験者コース）	2名
農産物輸出促進研修	1名
新規普及職員研修（中国四国ブロック）	1名

（参考）平成30年度の参加人数 4名

●県段階研修（令和元年度）

研修名	人数
自主企画研修	
・タブレット活用型PCによる効率的な普及指導活動	2名
・水稻、園芸品目におけるスマート農業を活用した地域課題解決の検討	2名
・小型コンピュータ「Raspberry Pi」によるIoT機器の作成と活用方法の検討	1名
・ミョウガの栽培及び病害虫にかかる情報の収集と整理	2名

（参考）平成30年度の参加人数 7名

上記の他に、専門技術高度化研修や新任普及指導員先進農家派遣研修、農業担い手育成センターを活用した農業技術力向上研修などに参加。

タブレット等
ICT技術の活
用状況について

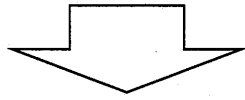
●ICTの活用について

平成28年度にタブレット型PCが整備され、現地での環境制御技術の研修会や病害虫の診断・情報提供、プレゼンテーションなどで活用。

外部評価対象課題の普及実績（元年度）及び計画（2年度）の概要

所属名	幡多農業振興センター農業改良普及課																																						
課題名	(元年度) 幡多地域における担い手の確保・育成 (2年度) 新規就農者の確保・育成																																						
取組期間	令和元年度～令和5年度	産業振興計画課題分類	I-①③ IV-① VI-①																																				
対象	就農希望者、農業研修生、新規就農者（農業次世代人材投資事業経営開始型受給者）																																						
ねらい	<p>○農業者の高齢化が進むことで、管内農家数の著しい減少が見られており、農業生産や農村機能の維持には、新規就農者の確保・育成を急務な課題であると位置づけた。</p> <p>・管内販売農家数：H12（4,225戸）→ H27（2,465戸・約6割）</p> <p>○管内6市町村では「産地提案書」を作成して県内外からの募集を行った結果、過去5年間（H26～30年度）で166名が新規就農し、また各市町村には指導農業士などの篤農家による農家研修と、5つの農業研修施設で研修が受けられる体制が整ってきた。</p> <p>○また、農業現場では労働力不足が深刻で、その対策として農福連携への取組みや女性農業者の活躍を支援する「はちきん農業大学」も開講されてきた。このような幅広い担い手の確保・育成にも取り組むことで、地域農業の維持・発展を図ることとした。</p>																																						
令和元年度の主な実績	<p>○市町村「産地提案書」の見直し支援や幡多地域就農相談会・新農業人フェア等、県内外の就農相談会への参加支援により、新規就農者数44名の確保につながった。</p> <p>○就農計画の作成や農業基礎講座の実施による支援により、認定新規就農者数11名の確保に至った。</p> <p>○労働力確保（農福連携）に向けた取組や女性の資質向上につながった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状（H30）</th> <th>目標（R元）</th> <th>実績（R元）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規就農者数</td> <td>28名</td> <td>43名</td> <td>44名</td> </tr> <tr> <td>就農相談件数</td> <td>24件</td> <td>20件</td> <td>22件</td> </tr> <tr> <td>研修生確保数</td> <td>9名</td> <td>7名</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>農業基礎講座参加率</td> <td>37%</td> <td>80%</td> <td>46%</td> </tr> <tr> <td>認定新規就農者</td> <td>10名</td> <td>10名</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>目標収量8割達成農家率</td> <td>30%</td> <td>80%</td> <td>56%（5/9名）</td> </tr> <tr> <td>農福連携受入農家数</td> <td>3戸</td> <td>5戸</td> <td>5戸</td> </tr> <tr> <td>「はちきん農業大学」受講者数</td> <td>12名</td> <td>15名</td> <td>7名</td> </tr> </tbody> </table>			項目	現状（H30）	目標（R元）	実績（R元）	新規就農者数	28名	43名	44名	就農相談件数	24件	20件	22件	研修生確保数	9名	7名	5名	農業基礎講座参加率	37%	80%	46%	認定新規就農者	10名	10名	11名	目標収量8割達成農家率	30%	80%	56%（5/9名）	農福連携受入農家数	3戸	5戸	5戸	「はちきん農業大学」受講者数	12名	15名	7名
項目	現状（H30）	目標（R元）	実績（R元）																																				
新規就農者数	28名	43名	44名																																				
就農相談件数	24件	20件	22件																																				
研修生確保数	9名	7名	5名																																				
農業基礎講座参加率	37%	80%	46%																																				
認定新規就農者	10名	10名	11名																																				
目標収量8割達成農家率	30%	80%	56%（5/9名）																																				
農福連携受入農家数	3戸	5戸	5戸																																				
「はちきん農業大学」受講者数	12名	15名	7名																																				
令和元年度の主要な活動内容と実施時期	<p>○幡多地区新規就農者支援ネットワーク協議会（8/6, 9/2, 12/13・計3回）</p> <p>○就農希望者への情報提供（支援チームによる面談等・随時） 宿毛市（5回・延べ6名） 四万十市（6回・延べ7名） 黒潮町（7回・延べ9名） 大月町（3回・延べ3名） 三原村（8回・延べ3名） 計29回・延べ28名</p> <p>○新農業人フェアへの参加 東京：9/8 三原村、1/25 四万十市 大阪：11/16 四万十市、黒潮町</p> <p>○農業基礎講座の実施（計6回・16講座・研修生を含む参加者22名・延べ50名）</p> <p>①7/17 土作り・肥培管理 ②8/7 病害虫・農薬の安全使用 ③8/21 制度資金 ④9/4 ハウス構造 ⑤9/18 簿記・GAP ⑥10/25 意見交換・交流会</p>																																						

(前頁から続き)	<ul style="list-style-type: none"> ○青年等就農計画の作成支援 (11名・随時) 宿毛市 (3回), 四万十市 (26回), 黒潮町 (9回), 大月町 (2回), 土佐清水市 (3回) ○経営目標達成支援 (新規就農者9名への栽培・経営支援 (延べ108回)・随時) 四万十市 (4名), 黒潮町 (1名), 大月町 (1名), 土佐清水市 (3名) ○労働力確保に係わる研修会 (2/14・福祉事業所によるニラ出荷調整研修会) ○はちきん農業大学 (県域講座・地域講座 20講座、延べ59名参加)
----------	---

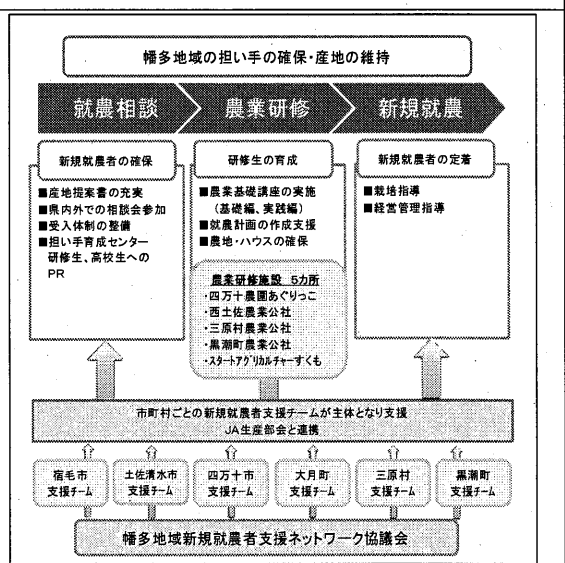


令和2年度の主な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○新規就農者の確保 (県内外での募集・PR) ○研修生の育成 (①農業基礎講座の実施 ②就農計画の作成支援) ○新規就農者の定着 (経営計画の目標達成支援) 												
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">項目</th> <th style="width: 25%;">現状 (R元)</th> <th style="width: 25%;">目標 (R2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修生確保数 (対象: 各市町村)</td> <td>5名</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>認定新規就農者数 (対象: 農業研修生)</td> <td>11 経営体</td> <td>10 経営体</td> </tr> <tr> <td>目標収量 (1~12月) 達成農家率</td> <td>26%</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状 (R元)	目標 (R2)	研修生確保数 (対象: 各市町村)	5名	7名	認定新規就農者数 (対象: 農業研修生)	11 経営体	10 経営体	目標収量 (1~12月) 達成農家率	26%	40%
項目	現状 (R元)	目標 (R2)											
研修生確保数 (対象: 各市町村)	5名	7名											
認定新規就農者数 (対象: 農業研修生)	11 経営体	10 経営体											
目標収量 (1~12月) 達成農家率	26%	40%											

令和2年度の主要な活動内容と実施時期	<ul style="list-style-type: none"> ○新規就農者の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農支援ネットワーク協議会 (6月、11月・2回) ・産地提案書の作成、見直し (随時) ○研修生の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・農業基礎講座 (8~11月・計10回・20講座) ○新規就農者の定着 <ul style="list-style-type: none"> ・支援チームによる状況確認 (4回)、担当職員による栽培・病虫害指導 (随時)
--------------------	---

所内体制	担い手担当チーム長1名、地域営農担当チーフ及び職員5名、産地育成担当チーフ及び職員11名 合計17名
------	--

連携推進体制の整備	<p><ネットワーク協議会・構成メンバー></p> <p>管内6市町村、JA高知県幡多地区 管内5農業研修施設、西部家畜保健所 幡多農業振興センター (事務局)</p> <p><協議内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各市町村の農業研修生の募集 ○研修生受入及び就職時の対策 ○次世代人材投資事業の情報交換 他 <p><オブザーバー></p> <p>農業担い手支援課、農業担い手育成センター 県農業会議、県農業公社</p>
-----------	--



令和元年度 普及指導活動実績の概要一覧

幡多農業振興センター農業改良普及課

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重1 環境制御技術の普及による施設園芸産地の強化	11	環境測定装置の導入 農家戸数	62戸	150戸	82戸 (55%)	△	導入農家戸数は高齢農家も居ことから、目標の5割程度に留まった。ただ、実証や現地検討会を活用した情報提供と研究会活動により、キュウリ、ピーマンでは20%の増収効果となった。	
総1 幡多地域における担い手の確保・育成	17	新規就農者数 認定新規就農者数	28名 10名	43名 10名	44名 10名	○ ○	担い手の確保・育成を目標に、市町村やJA、農業公社と連携して取組を進めた結果、新規就農者数及び認定新規就農者は、就農相談会の実施や就農計画、資金利用計画などの作成支援により目標達成に至った。	
総2 幡多地域の集落を守る！ ～集落営農組織の育成と法人強化～	17	目標収量8割達成率 集落営農組織数 こうち型集落営農 法人数	30% 63組織 25組織 12組織	80% 64組織 27組織 14組織	56% 63組織 27組織 15組織	△ △ ○ ○	品目担当普及員による個別指導や、サポートチームでの定期巡回によって達成率の向上は図られたが、今年度目標には達しなかった。 新たな組織設立は無かったが、次年度に向けて3集落での検討が始まった。 こうち型集落営農の取り組みが2組織で始まった。 新たに3法人が設立され、集落の農地を守る体制が強化された。	
総3 ユズの産地化を主体とした三原村の農業振興	7	ユズ青果率 新規就農者数(累計)	22% 2名	30% 5名	22% 3名	△ △	青果率は、集団指導による管理の徹底機会が少なかったため、伸び悩んだ ユズ栽培新規就農者は累計で1名増加したが、収量目標には達しなかった。	
総4 中山間(西土佐)の農業振興	5	米ナス簡易雨よけ栽培 培面積・反収	56a 8.3t	66a 11t	62a 9.4t	○ ○	簡易雨よけハウス(差込ハウス)での生育調査結果をもとに現地検討会などで推進した結果、栽培面積、反収ともに増加した。	
個1 キュウリ産地の育成	7	作終了時におけるキ ルバー(土壌消毒剤) 使用生産者数	5/90戸	10/90戸	17/90戸	○	作終了後の病害虫対策として、研修会にてキルバーでの土壌消毒によるアザミウマ対策と黄色エン病対策の周知を図った。結果、太陽熱処理との併用で17戸が実施するに至った。	
個2 ナス産地の振興	3	防除体系の実施農家 戸数	0/18戸	6/18戸	6/18戸	○	収量が伸び悩んでいる原因のひとつである黒枯病対策に取り組んだ結果、早朝の結露防止対策や薬剤の体系防除が周知され、年内予防の意識が定着した。	

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
個3 強いニラ産地の育成	3	出荷量(t/10a) (12月～2月)	1.7t	1.8t	1.5t (88%)	△	部会内での反収が少ないことから、基本的な管理技術を見直す取り組みを始めた。育苗期の管理や換気・灌水・薬剤防除等への理解は一定進んだが、目標収量には至らなかった。	
個4 ミノウガ産地の活性化	5	目標反収達成農家数 ・促成:4.5t ・抑制:2.5t(年内)	3/11戸 2/14戸	5/11戸 6/16戸	5/13戸 3/13戸	○ △	勉強会や先進地視察において篤農家が情報提供することで、参加者が多くなり、熱心な討議が行われるようになってきた。	
個5 イチゴの安定生産	6	ハダニ被害による 減収農家数	13戸	5戸	10戸	○	育苗期からの薬剤予防散布や定植以降の天敵資材の活用が図られ、ハダニによる被害が減少しつつある。	
個6 オオハ産地の活性化	3	センチュウ類に対す る、土壌消毒実施農 家数	4戸	6戸	4戸	△	実施農家の増加は無かったが、土壌消毒の効果は理解されつつあり、連年施用によるセンチュウ密度の低下も見られている。	
個7 競争力のあるオクラ産地の育成	6	平均出荷量(t/10a)	1.8t	2.3t	1.6t	△	現地検討会やセル苗の推進を行い、栽培技術のレベルアップに取り組んだが、台風被害などもあり出荷量の目標は達成できなかった。	
個8 ブロccoli産地の振興	4	宿毛支所移植機利用 面積(a)	690a	990a	460a	△	移植機利用面積は、定植時の天候不順により圃場での利用機会が限定された。	
個9 露地ショウガの振興	3	共同選果体制整備場 作付面積(ha)	1カ所	2カ所	2カ所	○	春プロにおける協同選果は、労力軽減が図られるとして、下ノ加江に加えて三崎でも実施。	
個10 大方南部地域の花き振興	2	市場事故件数 (ダリア4名・3～4月)	27件	27件以下	16件	○	栽培予定面積は目標に達しなかったが、JA広報誌や研修会によって、部会員数は28戸に増加。	
個11 土佐文旦を担う若者の育成による産地振興	4	後継者対象の講習会 (4回)参加者数	15/23名	20/23名	8/23名	△	ダリア首折れ症の条件と収穫・調製作業に用いている器具・容器の洗浄が徹底されたことが、市場事故軽減の一因と思われる。 文旦後継者を対象とした講習会を計4回開催したが、参加者は減少した。しかし、スマート農業や肥培管理技術への関心が徐々に高まりつつある。	
個12 飼料用米の生産安定	5	地域標準反収超農家 割合(反収430kg)	39%	60%	51%	△	栽培講習会やJA広報誌で情報提供を行った結果、地域標準反収超農家割合は増加したが、目標には達しなかった。	
個13 地域資源を活用した6次産業化の推進	3	大月町「姫の里」販売 額 黒潮町「かきせ」加工 品数	70万円 無	90万円 無	70万円 1	△ ○	「姫の里」の売上は目標に達しなかったが、食材カレンダ―や料理レシピ集が出来た。 販売には至らなかったが、「かきせ」での商品が完成した。	

令和2年度 普及指導活動計画の概要一覧

幡多農業振興センター農業改良普及課

課題名		チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重1	新規就農者の確保・育成	18	研修生確保数	5名	7名	市町村・JA・農業公社との連携 新規就農支援ネットワーク協議会 募集活動への支援、就業相談、就業計画作成支援、 支援チームによる面談、栽培担当による現地指導	
			認定新規就農者数	11経営体/ 年	10経営体/ 年		
			目標収量達成農家数	26%	40%		
重2	環境制御技術の導入としレベルアップ (主要6品目:キュウリ、ニラ、ナス、トマト、ミョウガ、イチゴ)	11	反収増	—	5~10%増	研修会、現地検討会、チーム会、幡多地区研究会 実証ほの設置(4力所)、生育調査、経営評価 事業導入支援	
			環境制御技術導入面 積率	48%	55%		
重3	幡多の中山間地域を支える地域営農システムの確 立	19	新規組織設立	—	1	集落座談会、先進地研修、集落営農塾、営農計画作 成支援、事業導入支援、経営管理指導、栽培管理指 導	
			法人化数	15法人	16法人		
			目標販売達成組織数	11組織	12組織		
			広域連携組織数	—	1		
一般1	GAPの推進	11	GAPに取組む部会数	1	4	点検シートの見直しとマニュアル作成、点検活動の 実施、 「はたのうGAP」の取組み紹介	
			GAPに取組む公社数	—	2		
一般2	三原村農業公社を中心にしたユズ産地の育成	4	公社出荷量(t)	128t	185t	現地検討会5回、講習会10回、選果施設利用検討 会、整枝・剪定モデル樹の設置、巡回指導、研修生 の募集	
			新規研修生数	—	2名		
一般3	西土佐地区米ナス産地の振興	2	重点対象農家平均収 量 (t/10a)	7.2t	8.0t	現地検討会8回、生育調査、巡回指導	

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
一般4 農福連携によるニラ出荷調整での労働力確保	4	ニラ出荷調整でのマツチング	無	有	地域PT会の設置及び開催(2回)、福祉事業所巡回(適宜) ニラ出荷調整体験講習会(2回)	
一般5 キュウリ黄化えそ病対策の推進	6	黄化えそ病発生株率1割以上の農家割合	32% (28/88戸)	30%	現地検討会4回、講習会4回、実証ほ設置3カ所、生育調査、巡回指導	
一般6 大玉イチゴの生産量増大に向けた支援	3	おおきみの面積拡大 化粧箱出荷量(2月まで)	67.5a 3.6t	88.0a 3.8t	現地検討会10回、講習会2回、実証ほ設置3カ所、生育調査、巡回指導、市場・輸出業者との意見交換	
一般7 露地ショウガの栽培技術向上	2	平均収量(t/10a)	2.7t	4.0t	現地検討会2回、講習会4回、巡回指導	
一般8 文旦の縮間伐低樹高化による省力化	2	縮間伐低樹高化導入面積の拡大	650a	900a	講習会(女性1・若手生産者2)3回、土壌診断4回、巡回指導、実証ほ設置1カ所	
一般9 ブランド米栽培技術の確立	4	玄米タンパク含有率(7.0%以下)の出荷割合	75% (45/60袋)	80%	新植予定園巡回調査4回、現地検討会4回、栽培講習会2回、巡回指導	
一般10 6次産業化の推進	3	黒潮町しおかぜ工房販売額 JA加工事業計画	93万円 無	200万円 有	チーム会の開催5回、検討会9回、講習会1回、研修会1回	

令和2年度普及活動外部評価会
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

幡多農業振興センター農業改良普及課

(○評価会で発表 ●評価表に記載)

評価項目	評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制	<ul style="list-style-type: none"> ・課内(所内)の分担 ●体制は適正である。 ・活動の進捗よく管理の体制 ●広い管内、多様な品目を対象としている中、チーム会などで良く進捗管理が来ている ・普及指導員の資質向上の取組 ○知財、農福連携等のテーマで良く所内研修が来ている。職員に対し必要と思われる研修は違うので、引き続き工夫して研修して欲しい。 ○職場研修として知識も必要だが、農家向けにも研修をして欲しい。 ●人権研修も普及活動においてとても重要。 ●最近、年上に対するコミュニケーション能力の低い者がいるので、積極的に研修して欲しい。
普及指導活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・普及課題の設定 ●課題に対する現状把握がよくできている ●課題数、品目数も多くて課題設定が大変だと思う。 ・対象の設定 ●課題を整理し活動を実施している。 ●新規就農者の課題は重要であるがとても難しい課題。 ・関係機関との連携 ○担い手対策として農業高校と連携し職業紹介が来ている。大学との連携も考えてもらいたい。 ・目標設定 ●プレゼンの目標、実績の項目の意味がわかりにくい。
普及指導活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の経過 ○親元就農が課題となっており、親も指導できる仕組みを作る。 ○福祉事業所や障害者の要望を受けて調整して欲しい。 ・実績(活動の結果) ●毎年30人ほどの新規就農者を確保するなど活動がよくできている。 ・成果(目標達成状況) ●管内に研修施設5カ所を有する特徴的な地域となっている。これを活用するため、地域での支援体制を構築し、新規就農者、研修生の確保にさらに力を入れて欲しい。 ●普及活動に対して定着率が低いが残念。新規就農、定着した農家を活用(経験談、相談相手など)して、定着率の向上と新規就農者の確保をして欲しい。 ・結果の周知 ●コロナ禍で地域移住も注目されているので、これを機にさらにPR活動を頑張りたい。

外部評価、総合所見等

●新規就農の定着はこの地域でも重要なので高知全体の課題。